

所属・資格 史学科・教授

申請者氏名 松重 充浩

研究課題		張作霖地方政権の対内モンゴル東部統治施策の実態解明
報告概要	研究目的 および 研究概要	<p>【研究目的】本研究の目的は、多民族居住地域である中国東北地域において地域統合を試みた張作霖地方政府（1916-1928）の対モンゴル政策を事例に、多民族共生空間成立に際して何が重要であるのかという、現代社会が直面する民族紛争解決に必要な歴史的知見の獲得にある。</p> <p>【研究概要】本研究では、以上の研究目的実現にむけての一階梯として、従来の張作霖地方政府研究では等閑視されてきた、現地社会の特徴である様々な民族と国家および社会的諸集団・組織の相互連関・相互変容という視角を駆使しつつ、文理学部所蔵のビジュアル資料を含む各種関連記録の摘出と分析を行い、張作霖地方政権の対内モンゴル東部統治政策が如何なる歴史的な前提で実施されたものだったかを明らかにすることを目指した。</p>
	研究の結果	<p>本研究の結果としては、以下の2点をあげることができる。</p> <p>（1）本学所蔵記録の調査を通じて、数多くの内モンゴル東部関係資料の存在が確認できた。特に、文理学部資料館所蔵の「黒崎コレクション」や「杉本恒記旧属記録」には、多民族居住空間であることを視覚的に明示する地図やグラフ誌が所蔵されていることが判明し、その公開に向けてのデータベースの構築をおこなった。これにより、本学の当該関連記録の資料的価値をより広く社会発信していく上での準備が整った。</p> <p>（2）上述調査により摘出された記録の分析を通じて、現地の日本人や中国人の間で、モンゴルとモンゴル人に対して、①自らの力だけで自立することができない保護されるべき存在である、②「開発」を待つ豊かな地域である、との認識が形成されていたことが確認された。</p>
	研究の考察・反省	<p>【考察】上述の分析をふまえて、張作霖地方政権の対内モンゴル東部の諸施策を考察すると、自らの政権安定を念頭においた、強権的な「開発」と政権幹部とモンゴル王公間の婚姻を含む多様な「懐柔」の、相反する二つの方向性が確認できた。</p> <p>【反省】以上の考察における反省としては、上述の二つの方向性を持つ施策が、東北地域社会の安定に如何なる意義を持つものだったのかの考察に進めなかったことにある。この課題克服には、張作霖地方政府の諸施策の遂行対象であるモンゴル側の認識や行動の分析が不可欠だが、校務の多忙さもあり、本年度の研究では追究できなかった。後日を期すこととした。</p>
研究発表 学会名 発表テーマ 年月日/場所	※この欄は、本報告書提出時点で判明している事項についてご記入ください。	
研究成果物 テーマ 誌名 巻・号 発行年月日 発行所・者	<p>【研究成果物】 松重充浩編『展示図録：「満洲国」北部の水運・都市そして紛争—ビジュアル・メディアを中心に—』（日本大学文理学部資料館、2024年10月26日）</p>	